

BPA に関する FDA の最新の声明は時期尚早だったのか？



[Steven Hentges, Ph.D](#)

2018 年 3 月 26 日(月) [SAFETY](#)

数週間前、米国国家毒性プログラム(NTP)は、これまでにビスフェノール A(BPA)に対して実施した最大の研究結果を発表しました。CLARITY Core 研究は、NTP の上席研究員等が国立毒性学研究所(NCTR)として知られているアーカンソーの研究所で米国食品医薬品局(FDA)と共に実施しました。

研究規模よりも重要なことは、BPA に対する研究では前例のない研究範囲であるということです。実験動物は、妊娠初期から子孫までの全生涯にわたって BPA に曝露しました。実際のヒトの曝露レベルに近い低用量から典型的なヒト曝露の約 250,000 倍も高いレベルまで、非常に広い範囲の BPA 用量で試験を行いました。BPA に関してのこのような範囲と規模の研究は世界でも類を見ません。

この結果は、私たちが一生涯 BPA に曝露されても、健康影響を引き起こす可能性がほとんどないことを示しています。[研究報告](#)の結論に述べられているように、「BPA はバックグラウンドと区別可能な最小限の影響が認められました。」

極微量の BPA を含む食品の安全性に関する社会的関心をはじめ、BPA が長年論争的となっていることを考慮すると、FDA が研究の意味について市民とコミュニケーションを取らなかったなら許し難いことでしょう。その[使命](#)の一環として、FDA は「*国家の食糧供給の安全性を保証することによって公衆衛生を守る責任がある。*」と述べています。

“...our initial review supports our determination that currently authorized uses of BPA continue to be safe for consumers.”



そして FDA は非常に適切に一般大衆に周知しました。FDA は、NTP 報告書のリリースとともに、BPA の安全性に関する現時点の考えを提供する [声明](#) を発表しました。FDA は、CLARITY Core 研究の新しい情報を手にして、次のように述べました。「我々の初期レビューでは、現在認められた BPA 使用法は、引き続き消費者にとって安全であると言う我々の決定を支持しました。」

重要なことは、この声明には、CLARITY 研究に関する追加的な背景説明と、科学的レビューと研究の両方を含む長年にわたる BPA に関連する FDA の広範な活動についての短い要約も含まれていました。それにもかかわらず、FDA は CLARITY のもう一つの研究結果の発表を待って声明を出すべきであったと言って、FDA の発表が時期尚早だったと [非難している人もいます](#)。

文脈から逸脱しますが、FDA の声明は時期尚早と思われる可能性があります。しかし、実際には FDA に今すぐタイムリーな声明を出すための明確な根拠を与えるかなりの背景があります。FDA はその声明を支持するための強力な科学的根拠を持っているだけでなく、その使命ゆえに食品安全に関連する事項についてステークホルダー(米国国民)に知らせる権限が与えられています。

最近の FDA の声明には、これが FDA の CLARITY Core 研究の最初のレビューであり、FDA が今後の研究の査読に完全に参加するという文脈も含まれています。また、[ウェブサイト](#)でも述べられていたように、「FDA は、新しく公開された NTP 報告書の草案(CLARITY-BPA)を含む BPA に関する利用可能な情報と研究を引き続きレビューし、BPA の評価を最新のものにして、必要であれば追加措置を講じます。」それは、FDA の現在及び将来の行動は、推測ではなく、科学に基づいているはずで